

平成27年度第1期えるのす連続講座～女性大学～ 社会とつながり、心豊かに 開催結果の概要

月日	演題	講師
5/26 (火)	ホスピタリティの正体	オフィスAZM 代表 濱野まさひろ
6/2 (火)	北海道の女性教員と男女平等	北海道ジェンダー研究会 林恒子
6/9 (火)	グローバル化時代のエコリテラシー —インドネシアのフィールドから考える—	北海道大学大学院文学研究科 准教授 笹岡正俊
6/16 (火)	新たな世帯のかたちと精神的健康	北星学園大学社会福祉学部福祉臨床学科 准教授 永井順子
6/30 (火)	幸せになるための方法	天使大学看護栄養学部 教授 伊藤進
7/7 (火)	アンチエイジングと食生活	北海道文教大学人間科学部健康栄養学科 講師 松川典子
7/14 (火)	再生可能エネルギーの今とこれから	北海道科学大学工学部電気電子工学科 准教授 矢神雅規
7/21 (火)	三浦綾子・三浦光世の短歌 —作家を支えたくた>の世界—	北海学園大学人文学部日本文化学科 教授 田中綾
7/28 (火)	「ロシア」を知る	札幌大学地域共創学群 教授 大矢温
8/3 (月)	現在（いま）を知る	北海道新聞社 論説委員 貴志雅之

平成27年5月26日（火）

ホスピタリティの正体

オフィスAZM 代表 濱野まさひろ



「北海道はホスピタリティが不足している」とよく言われます。北海道を「ホスピタリティの大地」にするために我々は何をすべきでしょうか。講義では、ホスピタリティの起源や定義、ホスピタリティとサービスの違いについて説明いただきました。そして、ホスピタリティの目的は将来のファンをつくること。相手以上に相手のことを考えることが求められ、そのためには傾聴、コミュニケーションが大切。笑顔で雑談ができるようになれば大丈夫。普段の生活の中でもホスピタリティは実践できるとお話いただきました。

平成27年6月2日（火）

北海道の女性教員と男女平等

北海道ジェンダー研究会 林恒子

2011年に札幌市が行なった市民意識調査によると、約50%の人が「学校教育の場で男女平等になっている」と答えています。学校は職場や家庭よりも男女平等であるというイメージは正しいのでしょうか。講義では、資料を見ながら、北海道の女性教員の比率が小・中・高および管理職のいずれも全国平均を大きく下回っている状況や、教科によって女性教員の比率に大きな差があることなどを説明いただくとともに、自らの教員生活の経験談などをお話いただきながら、男女平等教育について考えました。



平成27年6月9日（火）



グローバル化時代のエコリテラシー ーインドネシアのフィールドから考えるー

北海道大学大学院文学研究科 准教授 笹岡正俊

私たちの暮らしと世界の環境問題は思わぬところで結びついています。講義では、インドネシアで急速にすすむアブラヤシ農園開発の背景には私たちが日常的に利用しているパーム油の需要の増大があることや、アブラヤシ農園開発が自然環境や地域社会に負の影響を及ぼしている現状などを映像を用いながらお話いただきました。そして、暮らしを支えるモノが環境的・社会的に問題なく生産されているかを識別する鋭い能力がグローバル化時代を生きる「消費者市民」に求められるとお話いただきました。

平成27年6月16日（火）

新たな世帯のかたちと精神的健康

北星学園大学社会福祉学部福祉臨床学科 准教授 永井順子

人口減少社会において単身や高齢の世帯が増加するなか、病気や介護などにまつわる不安は誰もが抱くものとなっています。講義では、超高齢社会の中、単独世帯や親と未婚の子の同居世帯が増加している背景などについて説明いただくとともに、うつ病や認知症に望まれるサポート体制、在宅医療の充実について精神的健康の観点からお話いただきました。そして、あらかじめ看護や介護が必要になった場合を見通し、情報収集し、支援を受ける力を身に付けておくことが大切とお話いただきました。



平成27年6月30日（火）



幸せになるための方法

天使大学看護栄養学部 教授 伊藤進

幸せとは？また、どうしたら幸せになれるのでしょうか？講義では、幸せとは何かについて考えるとともに、心理学の立場から、誰にでも簡単にできる自分の手で幸せをつかむ方法をご紹介します。そして、笑顔や感謝の気持ちも幸せな気分へとつながるが、困難を自分の能力で乗り越えた達成感・自己効力感を生む充実感と持続的幸せを与えてくれる。持続的幸せをつかみ、幸せな気持ちをより深いものとするためにも、困難を避けず自分の力で乗り越えようとする工夫が必要とお話いただきました。

平成27年7月7日（火）

アンチエイジングと食生活

北海道文教大学人間科学部健康栄養学科 講師 松川典子

アンチエイジングという言葉をよく耳にするようになりました。アンチエイジングとは、加齢に伴う疾患を予防し、健康長寿を目指すことです。老化予防に関する多くの情報が飛び交っている中、私たちが気をつけるべきこととはどのようなことでしょうか？講義では、老化の主な要因、抗酸化や抗糖化のポイントについて説明いただくとともに、アンチエイジング効果が期待される抗酸化食品をご紹介しますながら、健康長寿を目指すための食生活、アンチエイジング食品との上手な付き合い方についてお話いただきました。



平成27年7月14日(火)



再生可能エネルギーの今とこれから

北海道科学大学工学部電気電子工学科 准教授 矢神雅規

太陽光発電、風力発電などに代表される再生可能エネルギー。社会における必要性がますます高まっていますが、増えすぎると一定周波数を維持できないという課題があります。講義では、再生可能エネルギーとは何か、発電のしくみや発電量の推移について説明いただくとともに、CO₂排出量の多い火力発電が増加している現状や北海道における風力・太陽光発電の導入量、安全性の確保を前提にしたエネルギー政策の基本視点についてもお話いただき、再生可能エネルギーの今後の可能性について考えました。

平成27年7月21日(火)

三浦綾子・三浦光世の短歌—作家を支えた〈うた〉の世界—

北海学園大学人文学部日本文学学科 教授 田中綾

小説『氷点』『塩狩峠』『母』などで知られる三浦綾子。作家になる前の闘病中だった綾子(旧姓堀田)を短歌創作にいざなったのは、幼なじみであり、結核療養者の会で再会した前川正でした。講義では、綾子の「アララギ」投稿歌や、小説『道ありき(青春編)』に載せられた数々の短歌を取り上げながら、清らかな前川との恋、貴重な二人の生活の記録を読み解くとともに、夫として口述筆記を支えた三浦光世の短歌や三浦綾子文学についても紹介いただきながら、文学作品の持つ力について考えました。



平成27年7月28日(火)

「ロシア」を知る

札幌大学地域共創学群 教授 大矢温

1000年以上の長い歴史を有し、日本の60倍以上の面積をほこる「ロシア」。地理的にも気候的にも、そして人種・民族も多様です。講義では、ロシアの民族や宗教、長い歴史の中で変化してきた領域とその中心、急成長したロシア経済や急増する日ロ貿易など、様々な角度から「ロシア」をご紹介いただくとともに、北方領土問題についても考えました。また、数々のソ連のポスターを取り上げながら、ソ連時代の女性の社会参画やロシアの国際婦人デーの習慣などについてもお話いただきました。



平成27年8月3日(月)

現在(いま)を知る

北海道新聞社論説委員 貴志雅之

来年行なわれるアメリカ大統領選挙。年明けから本格化する選挙戦を前に、民主党、共和党ともに立候補者が名乗りを上げています。大統領選挙の争点に目を向けると、そこにはアメリカが抱える問題が見えてきます。講義では、人種構成が変化してきているアメリカの国情や、中国を念頭に置いたアメリカの経済戦略についてお話いただくとともに、オバマ政権によるアジア重視の外交政策の影響もあり、複雑怪奇な問題に陥っている中東情勢についてもお話いただき、アメリカから見た国際情勢について考えました。

